

# ゴーヤのカーテンで「E」を育てる

市内公共施設



▲ゴーヤの世話をする三原公民館職員。「早く大きくなってね!」

南あわじ市内の公共施設で、ゴーヤの葉で日差しを遮り、建物内の温度を下げて電力使用量を抑える「緑のカーテン」作りが行われています。

このゴーヤのカーテンは昨年、三原公民館や緑庁舎で実施。三原公民館では電力使用量が隣接する三原図書館と合わせて約4%減少するなどの効果があり、今年も他の施設も加わり、範囲を拡大して取り組んでいます。

昨年は種蒔き時期の遅れと、プランターが小さかったこ

とで葉の広がりが少なかつたため、今年はプランターを改良したり、下部の小さな実を摘み取ったり、摘心するなどして葉の成長を優先させています。

三原公民館の中田明樹館長は「市内全域に広がって欲しい」と期待しており、できた実も栄養が豊富なため、活用できると考えています。



▲ゴーヤの実

# 南米ペルー料理で交流

国際交流サロン

市内の定住外国人の交流の場として6月7日、「国際交流サロン・ペルー料理体験」を西淡公民館で行いました。

教室では、カボチャやイモを使ったドーナツ「ピカロン」や鶏肉の炒め物を南米独特の味付けで調理。参加した50人が料理づくりに挑戦しました。

この国際交流サロンは、昨今の国際化の流れの中、多文化共生社会の形成に向けて市が取り組んでいるもの。互いの違いを認め合い、知り合う機会を楽しいイベントの中で見つけてもらえたらと考え実施しています。

今回初めて参加したというベトナム出身の男性は「家でも料理をしますが、いろいろな人と料理をするのは楽しいですね」と話していました。

※8月16日には、流しそうめんや宝楽焼、すいか割りが行われる「海あそび・日本食体験」が行われます。(要申込)



▲ペルー料理に挑戦する参加者

# 地域福祉推進計画

南あわじ市社協

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指す、地域福祉の具体的な行動計画として、社会福祉法人南あわじ市社会福祉協議会が、「第一次地域福祉推進計画」(21~23年度)を策定し、冊子を発行しました。

冊子は、行政や関係機関と協働して進めていく指針にも役立つようにと、市をはじめ事業所などにも贈られています。

内容には、来年、市が作成予定の「地域福祉計画」への提言も明記されており、全戸配布されます。

による住民意識調査の分析結果や住民の意見やコメントの掲載、当事者への聞き取り調査結果など、市民の声盛り込まれ、住民や地域のニーズを反映させた計画冊子です。

また、ダイジェスト版を作成して、地域福祉への意識付けと理解を深めてもらうために、住民の方々にも自治会を通じて全戸配布されます。



▲冊子(A4版153頁)とダイジェスト版

# 市議会議員 楠直茂氏が逝去



▲故・楠直茂議員

6月9日、南あわじ市議会議員の楠直茂氏(61歳・志知)が病气のため、お亡くなりになりました。

楠氏は、平成9年7月に広く地域住民の信望を得て、旧西淡町議会議員選挙で初当選以来、卓越した指導力と行動

力から議会運営委員長などの要職を歴任。平成13年7月には旧西淡町議会議長を務められました。

合併後も市議会議員に当選され、豊富な知識・経験を活かし、今日に至るまで農業改革における担い手作り対策など農業振興に積極的に尽力し、地域住民の福祉の向上に大きく貢献されました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

# マスクを寄贈

新型インフルエンザ拡大が心配された最中の5月19日、測量・環境機器販売会社(市青木)の眞野方仁社長が、南あわじ市へ「生まれ育った市に役立ててください」と会社で取り扱っている商品の医療用マスク1000枚(ワイヤレスカット仕様)を寄贈されました。



▲マスクを中田市長に手渡す眞野社長

# ふるさと納税

ご寄附ありがとうございます。

ふるさと南あわじ応援寄附金 (6月18日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	221件	29,283,219円
市外(島内)	28件	1,716,000円
市外(島外)	112件	9,579,940円
合計	361件	40,579,159円

詳細は市のホームページに掲載しています

# 淡路だんじり祭 フォトコンテスト

淡路だんじり祭フォトコンテストの結果が決まり、特選1人と準特選2人、入選3人、佳作10人の作品が選ばれました。(13頁に関連記事)



▲特選「クライマックス」 高谷健司(洲本市) ※応募作品は7月15日まで三原公民館で展示。

# 淡路人形の切手

淡路人形浄瑠璃のPRをしようとして、淡路島内の49郵便局が合同で、淡路人形の写真が入った切手シートを作成し、6月17日から販売を始めました。



▲作成された切手

# 浄瑠璃本を寄贈

近藤治喜さん(複製)が5月22日、淡路人形浄瑠璃資料館に「浄瑠璃本63冊と尻すけ、拍子木」を寄贈されました。

この寄贈品は、昭和前期、淡路人形座の4段目語り(※)の太夫として活躍された亡父豊竹常盤太夫の愛用品。豊竹太夫は、昭和33年に淡路人形として初めての海外公演(旧ソ連)も行われました。

近藤さんは、「資料の充実に役立ててほしい」と話されていました。

現在、速やかに再発防止委員会を設置し議論を重ね、このようにことが二度と起こらぬよう公金全般にわたる管理のあり方を見直し、公金取扱いのチェック機能を強化するとともに、市民の皆様の信頼回復に向け、職員一丸となって取り組んでいるところでございます。

また本事件は職員の、私生活の影響により発生した事案でもありますが、再発防止のため、管理職が毎年10月に行っており職員全員の面談を6月に前倒しで行い、生活状態や精神状態の把握にも努めてまいります。

今後は市長を先頭に、市役所職員に与えられた使命を強く自覚し、職員一人ひとりが今まで以上に緊張感をもって行政の適切な遂行と、市民の福祉向上に全力を尽くしてまいります。

ほんとうに申し訳ございませんでした。市職員の不祥事を心からお詫び申し上げます。

# ふれあい市長室

## 市職員の不祥事を心からお詫び申し上げます。

南あわじ市長 中田勝久

この程、市職員による公金横領という不祥事が発生しました。しかも市民の皆様が一生懸命働いて納めていただいた税金に対するものでした。

本事件は、市民の皆様への信頼を著しく踏みにじる行為であり、このような不祥事を未然に防ぐことができなかったこと、また、市民の皆様にも多大な迷惑とご心配をおかけしましたことに、心から深くお詫び申し上げます。

全体の奉仕者である公務員が、重大な犯罪行為を行ったことはもとより、職員全体の信頼を失墜させるとともに、市役所に対する不信感を与えましたことは誠に申し訳なく、自虐の念に駆られているところであります。

事件は、緑総合窓口センターのレジスター集計担当職員が、11回にわたるレジの改ざんを行い、81万3000円を私的に着服したものです。

処分は、5月21日付で当該職員を懲戒免職。管理監督責任者として、市長と副市長、緑総合窓口センター所長、同課長を、